
エセマッチ売りの少女

mmo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エセマツチ売りの少女

【Nコード】

N1791C

【作者名】

mmo

【あらすじ】

マツチを売り少女はクリスマスなんて大ッ嫌い。だって。みんな聖者気取りになって。優しさをかもし出すんだもの……。

「マツチ、マツチは要りませんか？」
雪がちらつく寒い夜空。
幼い少女はマツチを売っていた。
一本、銅貨一枚のマツチを。

そのマツチを買うつと。
炎が燃え尽きる間。

少女のスカートの中に入り込んで。
下腹部を見ることが出来る。

それ以上もそれ以下も無いから銅貨一枚。
コイン一枚。

安いか安くないかはあなたのお心のままに。

孤児の少女は貧乏で。

馬小屋を借りて、家畜と共に寝起きをしている。
たいした仕事が出来る技量は無いし。

顔もそれほど綺麗じゃないから。

暗闇で体の一部を見せることしか出来ない。
恥じらいはある。

だけれど。

お腹は空く。

「見せてるだけだから、いいよね」
自分をいつも納得させていた。

処女だけは守り通したかった。
それを自分のプライドにしていた。

クリスマスは嫌い。

その日だけは、どんな人でも。

「クリスマスだから」

「聖夜だから」

「キリストの誕生日だから」

とイイ人になるうとする。

イイ人になると誰も少女に見向きはしないし。

不浄だといって石を投げつける。

クリスマスが近くなるといつもお腹をすかせていた。
だから。

神様は嫌いだった。

大きな石を見つめては。

それをパンだと思って、噛んだりなめたり。

味は無い。

町の権力者であるヘロデは。

『町のイメージの清浄化』とスローガンを立て。

浮浪者狩りを始めた。

議会も承認したし。

町のイイ人たちも喜んでそれを手伝った。

集められた浮浪者たちはいったい何処へいくのだろう。

ヘロデの手は少女にまで及んだ。

クリスマス・イブ。

室内と室外の過酷な温度差の最中。

少女は走った。

転んでは走り、走っては転び。

靴も脱げ、はだしになって。

ヘロデの魔の手から逃れようとした。

町の灯火も届かない路地裏。
吐く息の白さも解らない暗闇。
迷い込んだ少女はマッチに手をかけた。
かじかむ手で何度も何度も擦り。ようやく一本。
温かい。

その光の中ふと横を見ると。
彼女と同世代ぐらいの少年が倒れていた。
起き上がることは無いだろう。
もうすぐ私もこうなるんだ。

誰のせい？ 町の人のせい？ ヘロデのせい？ 神様のせい？
ううん。
ちがう。

何時だって死にそうな目に遭って来た。
何処だって死ねた。
だからそれが。

早いか遅いか、それだけ。
私の生きた数年は、どれだけ長いんだろう？
知りたい。

少女は歩き始めた。
マッチを擦ってはかがり火に。
はだしの足は皮がめくれ、血が出ている。
でももう、寒さも痛みも感じない。
体は何か貼り付けられたように動かないけれど。
それでも歩き続けた。

マッチが残り二本となった所で。
丘の上の教会へたどり着いた。
神様は嫌いだけど。

もう、疲れちゃった。

かじかむ手で教会の扉を叩く。

若い修行僧が出てきた。

少女は右手でマッチを一本差し出し。

左手で自分の股間を指差した。

それがいつものお客さんへの挨拶。

朦朧とした意識の中。

不意に出た行動だった。

若い修行僧は何も言わず。

マッチを持った少女の手を掴んだ。

ヒラリ。

火もつけられなかったマッチは雪の中へ。

少女にはそれが自分のように思えた。

修行僧は少女を教会に招きいれ。

毛布で体を覆い、パンとワインを差し出した。

優しくされた事が無かった少女は。

自分が持っている全財産を修行僧へ。

十三枚のニッケル硬貨。

それを修行僧は銀貨のように丁寧に預かった。

修行僧は少女を講堂へと誘った。

薄闇の中、司祭の説教に耳を傾ける信者。

でも。

信者の全てが少女と顔見知りだった。

誰もが少女のスカートの中に入ったことがある人ばかり。

あの司祭でさえ！

司祭の説教が聞える。

「キリストは不浄な性行為からでは無く。処女降誕から生まれた」
本当？

私でも生むことが出来るの？

こんな私でも？

「栄光の星に導かれた学者たちが、着いた所にイエスが誕生していた。学者たちは拝みひれ伏し、宝をささげた。そして名もない無字な羊飼いたちも拝して喜びに満たされた」
私の股間はいろんな人たちに見られてる。
学者だけじゃない。

司祭も議員も弁護士も金持ちも。

偉そうにしている人たちはみんな見ている。

なんなら大統領だって見てるわ！

街の名も無き人々は全員見てるわよ！

名も無い……名も無い……名も無い……。

あたしには名前が無い！

「イエスの降誕がすべての人々に与えられる喜びでの訪れであった」

少女は歩き出した。

まっすぐ、教会に掲げられたキリスト像に向って。

薄汚い少女の進行を誰も止めようとはしない。

下を向き必死に祈っている。

もし見てしまったら、自分の罪を認めることとなる。

そんな事でも思っているのだろう。

司祭も説教をやめ、うつむき逃げ出した。

一見して。

教会の中、全ての人が少女のために祈っているように見えた。

キリスト像の前に立った少女。
自分のスカートを捲くり上げ。

イエス・キリストの前で股間をさらけ出した。

「私はあなたの子を生みます。その子は、奇跡なんて二度と起こらないぐらいの平和な世界を、きつと……」

最後の一本を擦り。

その明かりをそのまま、自分の下腹部へ持っていった。

ちゃんと、見てね。

マッチの明かりが消えると同時に。

あの若い修行僧によって少女は取り押さえられた。

若い修行僧と暮らすこととなった少女。

少女は妊娠をしていた。

それは処女の子供なのか、それとも非処女の子なのか誰にもわからない。

教会は少女が妊娠していることを知り、修行僧を破門した。

町を出た少女と男。

辛い旅だけれど、今までより寒くは無かった。

そして一年後のクリスマス。

少女は子供を出産した。

その後、彼らがどうなったか。

それは解らない。

でも考えてみてください。

奇跡なんて、起こった事はないでしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1791c/>

エセマッチ売りの少女

2010年10月20日19時16分発行